

常念通り

白板地区公民館
館報編集委員会
☎ (35) 7740

「コロナ禍でのひな祭り」

恒例の雛段飾りは縮小して事務室前の1基、多目的室に、御殿飾りなどを展示しました。コロナ禍でも、季節の行事を大切に思い、館長と主事で展示を行いました。

江戸時代後期には、添え人形や道具が増え、江戸を中心に「段飾り」が発展する一方、上方では「御殿飾り」が優勢でした。昭和30年代後半に入るとほとんど見られなくなり、昭和40年代になると、段飾りが全国で主流となり、現代に

至っています。

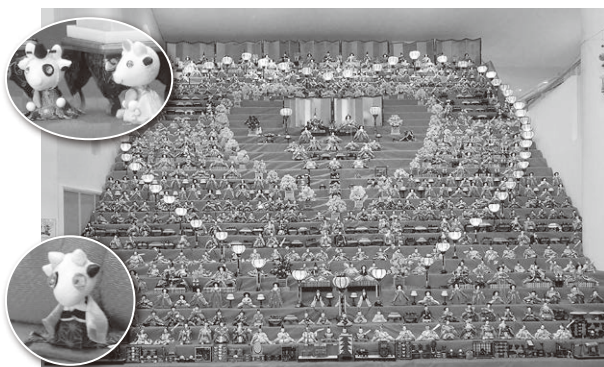
御殿飾りとは、京都の人たちが御殿を御所の紫宸殿に見立てたところから館の中に内裏雛を置いて飾ります。さらに、3人官女、隨身等の人形を添え飾り、人形の役割が分かるようになっていきます。

御殿飾りは、沢山の部品を組み合わせて作ります。

公民館の御殿飾りは内裏雛のみですが、向かって右側に男雛、左側に女雛を飾っています。当時の飾り方を尊重し、一般的な飾り方と逆になっています。



「コロナ禍でのひなまつり会」



3月3日(水)須坂アートパーク内にある世界の民俗人形博物館、須坂版画美術館歴史的建物園の3施設に展示している六千体のひな人形を参加者10名で見学に行きました。いつもと違うひなまつり会になりました。

世界の民俗人形博物館では、高さ6m、30段千体のひな飾りが展示されていました。よく見ると、丑年にちなんで、牛の御雛様が幾つか飾ってありました。全国から寄せられた江戸時代〜平成までの様々な年代の雛人形を見ることができ感動しました。

白板地区の遺構④

旧城山配水池・接合井

城山公園入り口近くに、水道局の城山配水池があります。6000㎡の配水池2個に隣接し、現在は使用されていない旧配水池があります。

旧配水池は、島内第一水源池から接合井(濾過池と配水池をつなぐために、その間に作られた井戸)に送られた水を市街地へ自然流下させて配水するための施設でした。当時、配水池と松本城天守(高さ29・4m)の高低差は90メートルあり、天守閣の高さを優に超える水压を有していました。

コンクリート造りで、上部に屋根と土を盛っており、大



大正11年ごろ 北西側より○は接合井の影

きさは、全体で縦約36m、横約42m、中に壁を約4mおきに設けています。

東面と西面にはレンガ造りの壁となっています。また、中央の通路の南北両端には、アール・デコ調の入口棟が造られています。大正11(1922)年から12年にかけて作られたもので松本市の近代水道における当初施設であり、松本市の水道の歴史を伝える貴重な文化財です。

東側入口からは、レンガ造りの壁しか見ることが出来ませんが、展望台近くの、浅井湧歌碑から少し下ったところから入口棟、接合井や西側の壁を見ることが出来ます。

平成27(2015)年8月に国の有形文化財に登録されました。



手前が接合井 真ん中に入口棟 南西より

自治の鐘 丸ノ内中学校

15

私たち三年生は、いよいよ卒業を迎えました。この三年間が過ぎるのはとても早かったけど、私たちはたくさん成長できたと思います。一、二年の頃は、尊敬できる先輩たちから丸中の三本柱「挨拶・清掃・合唱」を教えていただきました。そして、学芸発表会や各委員会の活動を通して丸中の伝統を感じ、学びました。私たちも次第に三本柱を意識した生活ができるようになりました。そして今年度は丸中の最高学年となり、私たちが先頭に立って生徒会活動を行いました。先輩たちから学んだ三本柱を引き継ぎ、「進」という大目標を掲げて活動を行いました。例えば「挨拶プロジェクト」という活動があり、校内ですれ違う人全員に挨拶する事を全員が意識して生活することで、丸中をより明るくし、新たな伝統を生む事ができたと思います。どんな活動でも三年生が一、二年生のお手本にならなければいけないことを意識して一生懸命取り組みました。また、地域の方々から、登下校時に「いつてらっしゃい」「おかえ



卒業に向けての一言

り」など挨拶をしていただき、地域の方々が見守ってくれて安心感を感じながら過ごすことができました。この三年間を丸ノ内中学校で過ごせて良かったなと思っています。丸ノ内中学校で学んだこと、経験したことをこれから先も活かして頑張っていきたいと思っています。地域の方々に支えられてに感謝し、これからは私たちが地域のために貢献していきたいです。ありがとうございました。

木沢のお寺「正麟寺」の 木沢とは？

白板歴史ウォーキングの寺社編で、昔、正麟寺のことを木沢のお寺といっていたことを思い出し、「木沢」について調べてみました。

松本市史 第一章「風土と歴史」第二節解説59頁には、「大門沢川沿いでは城山腰・木沢・放光寺・峯の平(旧市・放光寺)遺跡などである。」と記載されています。又、長野県内

白板歴史ウォーキング映像

トークセッション

ひろば100円カフェ

2月18日(木)白板地区福祉ひろばの「100円カフェ」に合わせて企画され、未編集で音声の無い映像を使用して館長と主事が寺社編と本村・新橋編についてトークセッションを行いました。会場と一体になったのトークで地域の歴史などに触れることができました。

参加者は14名で、「知らないことが沢山あり楽しめました」「一緒にウォーキングをしている気分になって楽しかった」等の声が聴かれました。講座でのお披露目は3月15日です。

館長と主事のトークセッション
福祉ひろば100円カフェにて

の遺跡「木沢」所在地 蟻ヶ崎・木沢(県史番号6 文化庁番号4771)、立地山麓と有ります。又、松本市史の地字帳(明治18年)の宮淵村の中に木沢西が字名で表示されています。このことから地名と推察されます。

又、この場所からは縄文時代(平安時代の打石斧、凹石、磨石斧、石槍、石包丁、太形(型)蛤刃石斧、土師器等が発掘されています。

館長は、「第一弾の犬甘城山編」はすでに各町会に配布していますので、それを皆さん見てください。又、第二弾以降はお披露目後貸し出します」と言っていました。

是非、身近な文化財や歴史に触れてみてはいかがでしょうか。

コラム 常念通り

ケシヨウヤナギ

2月下旬、梓川の河原に、ケシヨウヤナギを見に出かけました。幹が白い粉を吹き、まるで化粧をしているような姿をとらえて名付けられたと言う説、冬芽が赤く染まり、冬芽の群生が口紅を指したように美しいことから名づけられたと言つ説もあります。

どちらにしても、白と赤のコントラストが美しい姿を見ることが出来るのはこの時期だけです。

上高地では、河童橋わきに大木がありますが、主として中ノ瀬園地(田代橋・穂高橋付近)から横尾までの河原・川岸に自生しています。ケシヨウヤナギの種子が飛ぶのは上高地では6月初旬から7月初旬の約1か月程です。種子には柳絮と呼ばれる銀色に輝く綿毛がついており、風に乘って柳絮が飛散する様子は壮観です。ケシヨウヤナギの自生地は北海道と上高地を含む梓川流域のみです。このように貴重な植物が身近な場所にあるのは、ありがたい事です。

ケシヨウヤナギの、新緑の5月・柳絮が飛散する6月の上高地が楽しみです。(N.T)